

# 泉州電業株式会社

## 2025 年 10 月期第 2 四半期 決算説明会 Q & A

〔日時〕 2025 年 6 月 4 日（水） 10：30-11：30

〔場所〕 東京都中央区日本橋室町 2-2-1 岡三証券(株)室町本店 14 階セミナールーム

- Q1. 第 2 四半期は、特に、販売量、機器用・通信用電線を中心に伸び悩んだということが下振れ理由かと思うが、半導体製造装置や工作機械向けの回復が遅れている認識なのか、前期良すぎた反動を少し甘く見ていた状況なのか、教えてください。**
- A1. 半導体製造装置や工作機械向けは、実は底は打っています。ユーザー側の在庫が 1 年前はかなりあり、捌けてきていますが、まだそれほど強くないです。あるユーザーではピークを 100 とすれば、一旦 20 まで落ちたのが、今は 30～40 まで戻ってきており、まだ本格的な戻りに入っていないという状況です。一方、1 年前の品不足時に、特に機器用・通信用電線が他の用途で使用されたのは、ある程度我々も理解していましたが、その分、半導体製造装置や工作機械向けが回復してくるだろうという予想にズレがあったのが原因だと思います。
- Q2. 通期の業績予想を修正されなかった理由として、ハーネス加工が良くなってきた以外に、後半、機器用・通信用電線が戻り、下期回復すると見る背景を教えてください。**
- A2. A1.で底を打ったと申しましたが、戻りのタイミングが後半あるいは来年かというところですよ。全般的な設備投資の話をしますと、正直 4 月のトランプ関税が出て若干様子見になり少し遅らせるユーザーもありますが、やるべきことはやるという動きはありますので、当社としては下期の後半頃には半導体製造装置や工作機械向けの戻りが出てくることで、この通期達成を見ています。また一方で、銅価格がじりじり上がってきていますので、売上の押し上げ効果になってくると見ています。
- Q3. 電力用ケーブルについて、上期は好調、下期も堅調に推移する見通しだが、大型件名が目白押しという状況が続いているのか、あるいは別の理由で堅調と見ているのか、教えてください。**
- A3. 関東、関西の大型案件は継続していくと思います。大阪関西万博の後は、少し長めのプロジェクト（I R カジノ）が建設に入っています。本格的に電線が出るのは 2 年先ぐらいだと思いますが、万博よりも一桁多い金額の電線搬入量になると思います。また、半導体工場（熊本）ですが、着工が遅れていますが、何とか年内に着工するのではと思います。半導体関連は A I が（需要を）引っ張っており、その動きは今後も出てくるものと思っています。
- Q4. 中期的に注力している非電線部門、子会社事業あるいは海外展開で、進捗している部分があればアップデートしていただきたい。**
- A4. 農業関係はまだ金額は少ないですが、ユーザー層が広がってきています。大阪関西万博へも参加しますので、良い PR の機会だと思っています。子会社は、半導体製造装置向けコネクタを製造する nbs(株)が早々と戻りつつあります。研究試作品を中心に、先の動きをしています。また海外は、意外と中国が良く、特にローカルユーザーで、やはりロボット関係が強くなってきています。

- Q5. 販管費ですが、上期 3 億円増の内、半分が人件費ということだが、今後も賃上げの流れの中で、利益の圧迫を拡大していくことを想定した方が良いでしょうか？
- A5. 賃金は上がっていくと思います。それをどう吸収していくかは、1 番良いのは売上あるいは値上げをやっていくことですが、ユーザーとの関係もあり、なかなか進まないところもあります。とにかく粗利の改善がポイントだと思います。一方で、人件費を上げるだけでなく、トータル人員のコントロールをしっかりとやりながら、合わせて DX 化、本来、人がやっていた部分を IT で補い、全体の人数を抑えていく、これがポイントかと思っています。
- Q6. 中期経営計画の 2027 年 10 月期経常利益 130 億円について、過去、直需の売上構成比が 30%あった時よりも高い水準なので、この設計について教えてください。
- A6. 直需の売上構成比が上がると、同時に非電線の売上が上がり、この利益率は高いです。特に、今回の計画では、非電線の売上シェアがかなり上がっていきますので、これが全体の利益率を押し上げていくと考えていただければと思います。
- Q7. 中期経営計画は昨年と比べてシナリオが変わってくると思うが、Good シナリオ、Bad シナリオのレンジは、どんな想定で見ているのでしょうか？
- A7. 軸となるのは日本国内の設備投資が伸びていくことが大前提です。特にファクトリーオートメーション主体に、日本の工場の合理化、無人化や AI を使った展開、ロボットを含め、しっかり対応していくのがポイントです。2 つ目は海外展開です。特に当社は 3 年前にアメリカへ展開しています。今回の関税の影響も 2 通りあると考えており、日本国内の予定を抑え海外を増やしていく時には、当社のアメリカ現地法人は忙しくなると思っています。そういったところをうまく活用し、中計の達成に向かっていきたいと思っています。特に昨年からシナリオは大きく変えていません。
- Q8. 基本シナリオは変わっていないということだが、レンジで今は何を見ているのでしょうか？
- A8. 世間一般の成長率では、下方修正しているところですが、当社としては中期的に設備投資中心の経済成長に向かって進んでいくと計画しています。電線メーカーもデータセンター等新しい分野へ皆さんチャレンジされています。当社も電線商社として似通ったところ、違うところもありますが、日本のインフラに関わっていますので、歩みを合わせて進んでいくところであります。
- Q9. トランプ関税でも変わらないとのことですが、シナリオが変わるとしたらどういう状況になった場合でしょうか？
- A9. 関税が、例えば自動車や工作機械、あらゆるところに重くのしかかれば、これは日本だけでなく、アメリカ現地での生産も時間がかかりますので、景気全体に悪い影響はあると思います。そこまで想定すれば、厳しい見方もあるかもしれませんが、足元を見ますと、ユーザーもそこまで想定はされていないところで、現在（日米で関税について）交渉中ですが、どの辺りで落ち着くかと見ております。

以上

---

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

将来の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることに留意下さい。本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さい。

万が一この情報にもとづいて被ったいかなる損害について、弊社及び情報提供者は一切責任を負いません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

尚、情報は常に最新情報を反映しているものではないことをご承知おき下さい。